

正しいものに○、間違いに×をつけよ。

No.

氏名

- × ① 骨の機能としては体幹の保持と内臓の保護、カルシウムなどのミネラルの貯蔵、ビタミンの造成がある。
- ② 筋の収縮は、アクチンとミオシンがスライドすることによって筋原線維が短くなることで起こる。
- × ③ 下肢長の測定は大転子から足関節内果の距離である。
- ④ 肩関節の運動には屈曲伸展、外転内転、内旋外旋がある。
- × ⑤ 基本肢位は気を付けをした時の関節の肢位で、機能肢位は関節が動かなくなった場合に、日常生活で最も師匠の少ない肢位である。ギプスは基本肢位で固定する。
- ⑥ 徒手筋力テストで3は重力に抗して全可動域動く筋力である。
- × ⑦ 複雑骨折とは粉碎骨折のことで、開放骨折は骨折部と外界が直接交通するものである。
- ⑧ 小児の骨折の特徴として、骨癒合が早く、自家矯正能力が高い。靱帯損傷、脱臼は稀である。
- × ⑨ 上腕骨頤上骨折は、小児で最も頻度の高い骨折で、神経損傷やフォルクマン拘縮などの合併症がある。治療は基本的に手術である。
- ⑩ 橈骨遠位端骨折は、転倒した際に掌をついて起こすことが多い。高齢者に多く骨粗鬆症との関連が示唆される。
- ⑪ 大腿骨近位部骨折は、頸部骨折と転子部骨折があり、高齢女性に多い。骨粗鬆症との関連が示唆されており、寝たきりを防ぐため原則手術を行う。
- × ⑫ 脊椎圧迫骨折は、活動性の高い若年者に多く、軽微な外傷（よろめいてこける等）で発症する。胸腰椎移行部に多く、寝たきりの原因となる。
- × ⑬ 脊椎は頸椎8個、胸椎12個、腰椎5個、その他仙椎尾骨からなる。正面は直線状で、側面は緩やかなS字状を示す。
- ⑭ 脊髄損傷のFrankel分類は、AからEまであり、Aは運動知覚の完全麻痺である。
- × ⑮ 椎間板ヘルニアは、腰椎に多く、椎間板の髄核が後方（後側方）に脱出し神経根を圧迫することで生じる。30-50歳に男性に多く、手術が唯一の治療法である。
- ⑯ 脊柱管狭窄症は、変形性脊椎症に伴う骨棘や靱帯肥厚により脊柱管が狭くなり、馬尾症状や間欠性跛行が見られる。

- ⑰ 肘関節は上腕骨、橈骨、尺骨で構成され、腕橈関節、腕尺関節、近位橈尺関節の3つの関節があり車軸関節である近位橈尺関節により、回内・回外が可能である。
- ⑱ 捻挫や挫傷の応急処置であるRICE療法は安静、冷却、圧迫、高举により、局所の腫脹、出血、疼痛などを抑制する方法である。
- ⑲ 肘内障は、3-4歳頃の小児に多く上肢を引っ張ることにより生じる。橈骨等にある輪状靱帯が亜脱臼しており、回外・屈曲することで整復される。
- ⑳ 痛風は高尿酸血症による結晶沈着性関節炎で、母趾の付け根（第1中足趾節関節）に生じることが多い。
- × ㉑ 関節リウマチは、関節内の滑膜に対する自己免疫疾患で、すべての年齢で発症するが30-50歳の男性に多い。
- × ㉒ 関節リウマチは、対称性関節炎、多発関節炎を特徴とし、リウマチ因子は100%陽性である。
- ㉓ 関節リウマチが進行すると、手指関節の変形が見られるようになり、ボタン穴変形、スワンネック変形などの特徴のある変形を生じる。
- ㉔ 変形性関節症は、関節軟骨の老化や磨耗によって起こる軟骨と骨の進行性の変性疾患で、股、膝、足関節などの荷重関節に起こし易い。
- × ㉕ 変形性膝関節症は、肥満や過重労働によるとされており、日本人では男性に多く内反膝（O脚）を示すことが多い。
- ㉖ 変形性股関節症は女性に多く、臼蓋形成不全や先天性股関節脱臼などの原因がある二次性関節症が多くを占める。
- ㉗ 骨肉腫は、原発性悪性腫瘍のうち最多で、10歳代の小児に多い。主に膝関節周囲に発生し肺転移を来す。化学療法の発達により5年生存率は改善している。
- ㉘ 骨粗鬆症は、骨量の低下や骨質の劣化による骨強度の低下により骨折しやすくなった状態で、女性に多い。
- × ㉙ 原発性骨粗鬆症は、脆弱性骨折がない場合、骨密度が若い成人女性の50%以下の状態である。
- ㉚ 骨粗鬆症に治療は、骨吸収抑制剤や骨形成促進剤などの薬物治療のほかに、適度な運動や日光浴、転倒予防のための筋力強化などがある。
- ㉛ 術後の合併症として多く見られるのは、腓骨神経麻痺で、足関節の背屈が困難となり、鶏歩を示す。